

令和元年度帰国・外国籍児童生徒支援事業について

1. 日本語指導の基本方針

(1) 「日本語初期集中指導教室」での指導

来日直後の日本語がほとんどわからない児童生徒に対し、20日間（80時間）の集中指導を行う。

(2) 日本語指導員による期限付き初期・中期日本語指導

対象児童生徒に対する指導員の配置期間は、原則2年間とする。

(3) 日本語指導拠点校制度

塩冶小、四絡小、中部小、第二中、第三中及び斐川西中を拠点校とし、指導体制の充実を図る。拠点校以外の児童生徒は、近隣の拠点校への通級、または、居住地指定校を近隣の日本語指導拠点校に変更できるようにする。

(4) 年齢にとらわれない柔軟な受入

児童生徒本人、保護者の希望があれば、学校での学習期間を考慮して、学年を引き下げた受入を可能とする。

2. 日本語指導の流れ

時期・期間		内 容	特記事項
来日時	出雲市へ転入	市民課等の窓口 転入等手続 学校教育課窓口 転入学に関する手続 (日本語初期集中指導教室への通学について説明)	
1年目	20日間 (80時間)	日本語初期集中指導教室での指導開始 内 容 ; あいさつ、意思表示(サバイバル日本語)、学校での学習ルールやマナー等を学ぶ	・原則、保護者送迎 ・特別の教育課程による
	11か月間	拠点校での指導開始 内容 ; 「初期日本語指導Ⅰ」からスタート 「初期日本語指導Ⅱ」 「中期日本語指導Ⅰ」 「中期日本語指導Ⅱ」まで、日本語指導員が関わる。 ※ 順次、取出指導の時間を少なくしながら、在籍学級で受ける授業数を増やしていく。	・原則、2年間は日本語指導員を配置
2年目	12か月間		
以降		原則、在籍学級で授業を受ける。	

3. 「日本語初期集中指導教室」の開設について

(1) 設置の目的

日本語指導を必要とする児童生徒に対し、初期の日本語指導や学校生活に向けた適応指導を行い、在籍校での学校生活への円滑な移行を図ることを目的とする。

(2) 教室の概要

①設置場所 ; 出雲科学館内 1階 研究室1

②人員配置（スタッフ）及び業務内容

スタッフ	人数	主な業務内容
室長（学校教育課長兼務）	（1人）	・教室責任者
日本語指導員 （要 教員免許）	2人	・日本の生活や学校の生活、日常生活における簡単な日本語でのコミュニケーションについて指導 ・対象者の在籍校との連絡調整 ・保護者への説明、相談等
指導補助員	1人	・母語（ポルトガル語）による、生活・学習支援及び補助

③時間割；1時間目 8:45～9:25、2時間目 9:35～10:15、3時間目 10:25～11:05、
4時間目 11:15～11:55、11:55～下校

（3）各期の児童生徒数

期	期 間	児童生徒数	特記事項
第1期	4月15日～5月20日	小学生6、中学生2 合計8人	5/21 から、在籍校へ通学
第2期	5月24日～6月20日	小学生5、中学生0 合計5人	6/21 から、在籍校へ通学
第3期	6月26日～7月24日	小学生3、中学生1 合計4人	8/27 から、在籍校へ通学
：	：		
第9期	2月26日～3月25日		

4. 主な取組、昨年度からの変更点

- （1）日本語初期集中指導教室配置日本語指導員（2名） … **新規配置**
・一人当たり週28時間×40週（年間1120時間）
- （2）日本語初期集中指導教室配置日本語指導補助員（1名） … **新規配置**
・一人当たり週28時間×40週（年間1120時間）
- （3）拠点校配置日本語指導員（16名） … **1人当たり年間175時間増**
・一人当たり週25時間×35週（年間875時間）
- （4）拠点校配置巡回日本語指導員（3名） … **1人当たり年間175時間増**
・拠点校以外の日本語指導
・一人当たり週25時間×35週（年間875時間）
- （5）拠点校配置日本語指導補助員（3名） … **1名増員**
・一人当たり週28時間×35週（年間980時間）
- （6）通訳・翻訳支援員の配置・巡回派遣（3名） … **1名増員**
・保護者あて文書、教材、進路に関わる文書等の翻訳。教科学習、面談等の際の通訳 等。
・一人当たり1, 581時間/年（1日7時間45分、月平均17日）
- （7）キャリア教育（先輩に学ぶロールモデル教育） … **新規**
・高校進学や就職など、日本語指導を受けた先輩のキャリアに学ぶ。[年2回実施予定]
- （8）日本語指導検討委員会（専門委員会も）の定期的な実施
・日本語指導検討委員会での新しい日本語指導体制の見直し・改善
・専門員会での初期・中期の日本語指導カリキュラムの作成
- （9）「特別の教育課程」の編成、個別の指導計画の作成
・日本語能力測定法等を利用した実態把握、個別の指導計画の作成
・計画の作成、実施、見直しのサイクル
・「特別の教育課程」編成届/実施届の提出
- （10）教職員研修の実施、参加
・県日本語指導研修【6月26日(水)】
・市日本語指導教職員研修【8月26日(月)】、【12月26日(木)】

出雲市における日本語指導について【令和元年度】

(令和元年6月1日現在)

1. 日本語指導が必要な児童・生徒の状況

学校名	人数(人)	ステージ 0・1・2 (人)	母語別人数	指導者配置数(人) ※ [] 内は派遣		
				県加配教員	市日本語指導員	市巡回日本語指導員
今市小	3	0	ポルトガル語3人			
大津小	3	0	ポルトガル語1人 中国語1人 日本語1人			
塩冶小	51	23	ポルトガル語48人 日本語1人 タガログ語1人 インドネシア語1人	6	5	
神戸川小	3	0	ポルトガル語3人		[1]	
高松小	2	0	ポルトガル語2人			[1]
四絡小	16	14	ポルトガル語16人	1	3	
北陽小	1	0	ポルトガル語1人			1
平田小	1	0	中国語1人		[1]	
西野小	2	0	日本語2人			[1]
中部小	37	19	ポルトガル語37人	2	4	[1]
第一中	1	1	ポルトガル語1人		[1]	
第二中	30	13	ポルトガル語27人 タガログ語2人 中国語1人	4	3[1]	1
第三中	9	3	ポルトガル語9人	1	1	[1]
向陽中	1	0	中国語1人		[1]	
斐川東中	1	0	ポルトガル語1人			1
斐川西中	10	6	ポルトガル語10人	1	1	
合計	171	79	ポルトガル語159人 日本語4人 タガログ語3人 中国語4人 インドネシア語1人	15	17	3

※ 加配教員や指導員が配置されない学校は、自校での日本語指導対応。

※ 日本語ステージ 1：学校生活に必要な日本語の習得が始まる
 2：支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む。
 3：支援を得て、学級活動にも部分的にできる程度参加できる。
 4：学級活動にある程度参加できる。
 5：授業にある程度の支援を得て参加できる。
 6：積極的に授業に参加できる。

2. 日本語指導体制

職	所属校	人数	担当校
県加配教員	塩冶小	6	塩冶小
	四絡小	1	四絡小
	中部小	2	中部小
	第二中	4	第二中
	第三中	1	第三中
	斐川西中	1	斐川西中
市日本語指導員 (教員免許保有)	塩冶小	5	塩冶小
	四絡小	3	四絡小・神戸川小
	中部小	4	平田小
	第二中	3	第一中・向陽中
	第三中	1	第三中
	斐川西中	1	斐川西中
	初期教室	2	日本語初期集中指導教室
市巡回日本語指導員 (教員免許保有)	斐川東中	1	中部小
	北陽小	1	高松小・西野小
	第二中	1	第三中

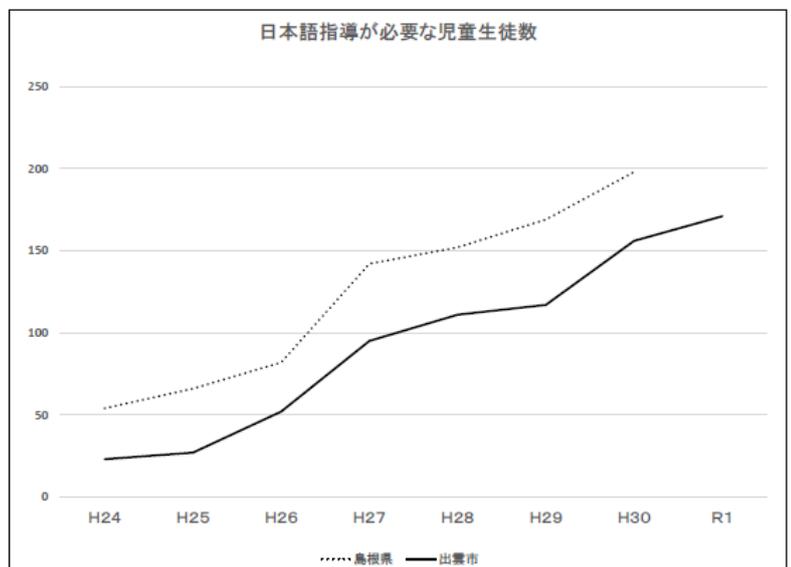
3. 通訳・翻訳等の支援体制

職	所属校	人数	担当校
市日本語指導補助員	塩冶小	2	塩冶小
	初期教室	1	日本語初期集中指導教室
市通訳・翻訳支援員	第二中	1	第三中巡回
	塩冶小	1	斐川西中巡回
	中部小	1	四絡小巡回

4. 日本語指導が必要な児童生徒数の推移

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
島根県	54	66	82	142	152	169	198	
出雲市	23	27	52	95	111	117	156	171
県加配教員	3	3	4→5	5→7	8→9	10→11	11→13	15
学校配置市指導員	3	3	5→6	6	12	14	19→21	20
学校配置市補助員	-	-	-	-	2	2	2	2
初期教室市指導員	-	-	-	-	-	-	-	2
初期教室市補助員	-	-	-	-	-	-	-	1
市通訳・翻訳支援員	-	-	-	-	-	1	2	3
市配置合計	3	3	6	6	14	17	25	28

※児童生徒数は「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」(各年5/1現在)による



参考資料1 「日本語初期集中指導教室」の様子



開講式(H 31.4.15)



ひらがな練習(自分の名前)



【校外学習；交通ルールと電車乗車】出雲駅まで徒歩で行き、交通ルールなどについて実地学習を行った。出雲駅では、駅の見学をし、一畑電車の切符を自分で購入し、科学館前駅まで乗車した。

① 日本語指導員の感想

- ・1クラスの人数が少なく、発言がしやすい。発話練習もしやすい環境である。
- ・転入してきた子どもたちが同じ環境で学習のスタートが切れるので、安心して学習に臨むことができ、気持ちも楽だと思う。
- ・子どもたちの笑顔が増えてきている。授業中でも休み時間でも母語で話せることができ、母語サポートもできるので居心地がよいと感じている。

② 児童生徒の感想

- ・指示されていることがよくわかる。
- ・早く学校に行ってみたいと思うようになった。転入が楽しみ。
- ・勉強が楽しい。安心して勉強することができる。

③ 保護者の感想

- ・自分たちが学びたいと感じるほどの施設である。
- ・自分の子どもが、早く日本の文化に慣れてほしい。
- ・この整った環境の中で、子供には頑張って学んでほしいと思う。
- ・この施設ができてとても良かったと思う。
- ・事前にいろいろなことを説明してもらったり、質問したりすることができるので保護者としても安心できる。

参考資料2「塩冶小学校増築（日本語教室棟）」の様子

- ・ 1クラス：6～8人程度（最大）、1人（最小）
- ・ 4教室をパーテーションで仕切り8～10部屋に分け、個別指導に活用できるように工夫されている。



3年生の授業



職員室



5年生の授業



職員室内の教材収納

① 日本語指導員の感想

- ・ 今まで特別教室を間仕切りしたり教室前の共有スペースを使って学習したりしていたが、新教室棟の個別教室で学習することができ、大変静かで、集中して学習することができる。
- ・ すばらしい学習環境が整ったので、本当に感謝している。
- ・ 今まで学習に集中できず授業中にイライラしていた児童が、この新教室棟での学習が始まってから落ち着いて学習に臨んでいる。
- ・ 母語で話せる場があり、コミュニケーションがとりやすく、精神的によい影響を与えている。
- ・ 午前中は教室が足りないくらい、フルに活用している。高学年は午後も活用している。
- ・ 日本語指導用の職員室があり大変助かる。印刷がすぐにできたり、教材を一括して保管できるようになったりして、指導に迅速に対応できるようになった。

② 児童の感想

- ・ この棟に来るのが楽しみでいる。
- ・ 教室移動が分かりやすくなり、とても喜んでいる。
- ・ 勉強しやすく、やる気が今まで以上にわいてくる。